

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム 郡上八幡バラの家		
所在地	郡上市八幡町初音140-1 (電話) 0575-66-2188		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年8月5日	評価確定日	平成19年9月18日

【情報提供票より】 (平成 19年 7月 20日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 16人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,200~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 19年 7月 20日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	11 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	1 名		
年齢	平均	83 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	郡上市民病院、八幡病院、堀谷医院、俊歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設内は木が多く使われ木のぬくもりを感じることが出来る落ち着いた造りとなっている。一人ひとりに合った個別性のあるケアにスタッフが一人となり取り組んでいる。地域との交流も積極的に行われている。地域の中のグループホーム作りを目指している。医療法人のため医療のバックアップもあり入所者やスタッフが安心して生活できている。スタッフが利用者をよく理解しており、日々の生活の中でやれることをやってもらいながら機能低下が少しでも防げるように努力している。スタッフ全員が今に満足せずもっとより良いグループホームになるよう目標をもって利用者と共に生活をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者と共に食事を摂るよう努力している。薬や洗剤、刃物等は鍵のかかる保管場所に保管される改善がみられた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の自己評価で取り上げられた改善点に早急に取り組み、今回の自己評価では日頃の取り組みを再確認し、サービスの幅や質的向上を図りこの評価システムを取り入れていく前向きな姿勢である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) グループホームだけでなく地域で火災が起きたときにはお互い協力しあうよう討議されている。避難訓練も地域と合同で行われている。地域のクラブに参加したり、運営推進会議での食事会も開催している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱には意見が寄せられないことがないため、家族の面会時や家族会の機会に意見等を聞き、反映させている。家族が不安等を持たれた場合はその都度早急に対応している。なかなか訪問されない家族には電話等で話し合いを行う場合もある。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームと地域合同の避難訓練、AED(自動体外式除細動器)の訓練講習を行ったり、地域のクラブ活動に参加している。地域の人がボランティアとして生花、お茶、話相手としてホームの活動に参加してもらっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着して暮らしていくための理念が設立当時より掲げられている。この理念を目標に日々の生活を送っている。理念も見やすい場所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員が共有し、一人ひとりの生活に合わせた支援が出来るよう、年に1回、理事長、管理者、職員を交えて全員に近いメンバーで会議を持ち、共通理解を深められるよう取り組んでいる。	○	全員参加型の理事長との話し合いの場を設ける今年度の取り組みに期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の郡上踊り、お祭りなどの活動に参加すると共に、地域の人々も畑作りや他のホーム活動に参加してもらい交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を理解し、改善に取り組み、より良いグループホームになるよう努力している。洗剤・刃物等の保管場所の変更、また、ケアマネジャーの資格を取り、ケアプランの記入方法を見直し、一人ひとりの更なる理解にもつなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が4ヶ月に1回開催されることにより、ホームと地域との交流や協力体制が今まで以上に深くなっている。災害時の協力体制も出来ている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡会議に参加し、不明な点は会議の時に質問し、質の向上に努めている。介護相談員も積極的に受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や3ヶ月ごとの便り、必要時に郵送で連絡するなど家族に報告している。金銭管理については、家族の確認印をもらっている。	○	支払い時の領収書はホームでコピーを保管した上で家族に渡す等、より明瞭な報告の取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に家族等の意見を聞いている。重要事項説明書には市町村、国保連の相談窓口が明記され、入所時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	6月に異動あったが、異動した職員が急になくなるのではなく、時間を作り顔を出すように事前の段取りで実施されていた。異動前と異動後にも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に1回は研修に参加できるよう職員の研修計画があり、実施されていると共に施設内研修も計画し実行する予定がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に出かけ、よいところは積極的に取り入れサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や相談の段階で十分検討されている。今までお試し利用の要望もなかったため特に定めていないが要望があれば検討していく予定である。また利用者も職員も馴染むのに1ヶ月程は必要とし、職員の精一杯の取り組みにより本人や家族には安心してもらえるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事前に利用者の生活歴から行動や性格などを丁寧に把握し、本人をよく理解する作業をした上で、職員は本人から学んだり共に支えあう関係を築こうとしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を丁寧に把握する道具として、センター方式の様式を取り入れ始めたところで、現在、一人ひとりの意向をシートに作成中である。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ユニット毎の会議もありその中で話し合いがなされている。ケアマネジャーを中心に介護計画にも反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度定期的に見直しを行い本人家族の同意を得ている。急を要する変化については、その都度協議をして介護計画の見直しを行うようになっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	次の受け入れ施設につなげる取り組みがなされたり、医療法人が母体であるため本人の健康状態を早急に把握し、家族の要望にも医学的に対応できる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけの医と連携をとりながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの要望は今のところない状態である。ホームで出来る限りの支援をし、その後入院し永眠された方は数名いた。ホームとしてぎりぎりまで支援していくことは、スタッフ全員が共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルが利用者や、その家族の目にとまらないように布をかけ配慮している。日々の業務に不必要なものは鍵のかかる保管庫に保管されている。しかし必要であればスタッフはいつでも閲覧できる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思の把握に努めている。自分で出来ること、得意とすることなどは、自分で行ってもらおうよう、一人ひとりの思いを確認しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下げ膳、1週間に数回の食事作りなど職員と共に行なっている。昼食については、職員も同じものを食べ、一緒に会話しながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が実施されている。汚れた場合はその都度シャワーや入浴を実施している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族の聞き取りにより、一人ひとりがどのようなことが出来るのか把握をし、その中から一人ひとりに役割を持ってもらい、色々なことを楽しみながら生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、外出、地域の行事など天候や季節、本人の体調に合わせて支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を掛けず開放してある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域と共に避難訓練を実施したり、ホーム独自でも行われるなど災害対策には日頃から心掛けている。地域との協力も話し合いで確認できている。	○	ホーム内の緊急連絡網に自治会長をはじめとする協力員の名前を記載されたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が栄養バランスについて指導している。個々にあった食事の対応については職員が丁寧に支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間についてはシンプルで居心地よく過ごせるように支援されている。蛍光灯も直接照明ではなく、天井のほうに向いた間接照明となっているなど配慮されている。また、居室のテラス前には緑が生い茂り、心地よさをももたしている。天井も高く、圧迫感を感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた物を居室に持ち込んでもらうようホーム側から連絡している。居心地良く過ごせるよう家具や調度品の配置が工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。